

総会

配布：一般

2018年1月23日

第72会期

議事日程議題 19

2017年12月20日に、総会により採択された決議

[第二委員会の報告書に基づく (A/72/420)]

72/210. 2024年、ラクダ類の国際年

総会は、

ラクダ類は、4,500 万年前のアメリカで最初に登場した厳密に草食系の、偶蹄目の哺乳類に属する有蹄類の哺乳動物であることに留意し、

北アメリカ、南西と中央アジア、オセアニアおよび南アメリカにラクダ類の六生物種、すなわち、ヒトコブラクダ、フタコブラクダ、ラマ、アルパカ、ビクーニャそしてグアナコがいることにまた留意し、

ラクダ類は、地球上の最も厳しい条件の生態系で生活している何百万もの貧しい家族にとって生存の主要手段を構成し、またラクダ類は、飢餓に対する闘い、極度の貧困の根絶、女性の地位と能力の向上および陸上性の生態系の持続可能な使用に貢献していることを更に留意し、

ラクダ類に由来する製品の包括的な管理は、持続可能な仕事の創設をもたらすとして平等を促進しつつ、農村社会の最も脆弱な住民の包摂を促進することを認識し、そしてこれらの種は、遺伝的多様性を維持し、保存しそして保護しているこれらの人々の伝統的なまた現代の知識の重要な社会的基礎を構成しつつ、先祖代々の先住民族の文化と精神的アイデンティティの重要な要素である

ことを更に認識し、

ラクダ類は、タンパク質の主な源であり、医療用繊維でありそして農業生産のための肥料であること、またラクダ類は、南アメリカの広範囲にわたるアンデス高地全体の先住民族共同体における並びにアフリカとアジアの砂漠における人や荷物を輸送している、駄獣として役立っていることに留意し、

ラクダ類は、気候変動の影響に対処することにおいて、とりわけ乾燥地や半乾燥地において、主要な役割を果たすことができることに、またラクダ類が提供する産物やサービスの促進のための理解、昌道および支援は、ラクダ類に依存している共同体の暮らしにとってこの上なく重要であることにまた留意し、

食糧の安全保障と生態系の機能にとってのラクダ類の重要性の市民意識を高めるためのそして持続可能な開発目標に貢献するためラクダ類の管理を改善する行動を促進するための緊急の必要性を想起し、

2017年7月3日から8日までローマで開催された、国際連合食糧農業機関の会議の第40会期において採択されたラクダ類の国際年に関する2017年7月7日の決議7/2017¹に留意し、

国際年の宣言に関する1998年12月15日の53/199と2006年12月20日の61/185の総会諸決議、および国際年と記念祭に関する1980年7月25日の経済社会理事会決議1980/67、とりわけ宣言のための合意された基準に関するその付属文書の第1項から第10項を、並びにその計画と資金調達のための基本的な準備が為される前に国際デーまたは年が宣言されるべきでないことを述べている第13および14項を再確認し、

1. 2024年ラクダ類の国際年を宣言することを決定する。
2. 全ての加盟国、国際連合システムおよびその他の全ての関係者に対し、ラクダ類の経済的

¹ 国際連合食糧農業機関、*FAO 会議報告書、第40会期、ローマ、2017年7月3-8日 (C2017/REP)*、付属書類 H。

および文化的重要性の国民の中の認識を促進するため、国際年を利用することをまた飢餓、食糧不足および栄養失調の根絶に貢献するため、食用品を含む、これらの哺乳類から生産された品物の消費を促進することを奨励する。

3. 国際連合食糧農業機関に対し、経済社会理事会決議 1980/67 に含まれた規定に注意して、諸政府、国際連合システムの関連組織、国際的なまた地域的な機構およびその他の全ての関連する利害関係者と共同して、国際年の準備と実施を促進することを招請する。

4. 国際連合食糧農業機関に対し、経済社会理事会決議 1980/67 の付属文書の第 23 項から 27 項の規定に注意して、国際年の評価を含めて、本決議の実施に関して総会の第 80 会期で総会に知らせることを要請する。

5. 本決議の実施から生じる可能性のあるおよび主導機関の職務権限の範囲内に現在ある物に加えた全ての活動の経費は、民間部門からのものを含めて、自発的拠出金で支払われるべきことを強調する。

6. 全ての関連する利害関係者に対し、国際年のための自発的拠出を行うことまたその他の形態の支援を提供することを招請する。

第 74 回本会議

2017 年 12 月 20 日